



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

年間第 15 主日 B 年 (2024 年 7 月 14 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：アモス書 7 章 12 — 15 節

第二朗読：エフェソの信徒への手紙 1 章 3 — 14 節

福音朗読：マルコによる福音書 6 章 7 — 13 節

ただ、神さまだけを頼る

三つの朗読から

第一朗読の「わたしを取り」(15 節) は印象的です。アマツヤは預言者になることを望んだ人です。しかも、預言によって生活の糧を得ていたのでしょうか。しかし、アモスは神さまからの選
びによって預言者にさせられました。神の助け、神の招きの中で預言者として生きていくのです。

第二朗読の「キリストにおいてお選びになりました」(4 節) も、選
びに関する言葉です。しかも、「天地創造の前」から、愛によって、愛を通して、神さまは選んでおられたのです。

福音朗読は、イエスさまがお選びになった十二人のお弟子さん、つまり使徒たちがイエスさまによって派遣されていきます。使徒という言葉は、ギリシア語では「遣わされた者」という意味です。十二人は、イエスさまの指示と想いを胸に抱いて出かけていくのです。

説教：ただ、神さまだけを頼る

今日の福音朗読には、

「旅には杖一本のほか何も持たず、パンも、袋も、また帯の中に金も持たず、ただ履物は履くように、そして『下着は二枚着てはならない』と命じられた」(8 — 9 節)

とあります。イエスさまは十二人を遣わすにあたって、指示を与えます。8 節から 9 節は宣教に向かう旅での態度です。杖は、蛇や獣を避けるための道具になります。履物は荒れた野山を

ある歩くには必要です。共観福音書では、杖も履物も禁じられています（マタ 10 章 10 節、ルカ 9 章 3 節、10 章 4 節参照）。『マルコによる福音書』の方が、少しゆるい規則となっています。同じように 9 節では「下着は二枚着てはならない」（新共同訳）とありますが、『ルカによる福音書』では「下着も二枚持ってはならない」（9 章 3 節）とあります。『マルコによる福音書』の方がゆるい規則です。

しかし、8 節で「パンも、袋も、また帯の中に金も持たず」とありますから、決してゆるやかな指示だとは言いきれないでしょう。袋は施し物、喜捨を受けた時に、それを取っておくためのものです。しかし、イエスさまのお考えは、喜捨はその場で消費できる範囲に限るべきで、将来を考えるようになるほど、将来の備えのためになるほどもらってはならないということだと思います。「金」はフランシスコ会訳では「小銭」となっています。原文の意味は銅貨です。ですから、金貨や銀貨はもちろんのこと、小銭である銅貨すらも持参してはならないという意味になります。

どうして、イエスさまはこんなに厳しい要求を、出かけて行く十二人に与えたのでしょうか？

それは、使徒たちが伝えるのは神の国の福音だからです。神の国の福音を伝える者が、別なものに頼ってはいはならないからです。ただ、神さまのみを頼り、神さまだけに信頼して生きていかなければ、福音は伝わらないのです。

また、「彼らへの証しとして足の裏の埃を払い落とさない」（11 節）という指示もまた、厳しいです。このフランシスコ会訳は「足の裏の塵」となっています。足の裏の塵を払うとは、異邦の汚れを払うためでした。ユダヤ人たちは、他国から自分の国に戻ってきた時には、足の塵を払ったそうです。ですから、使徒たちの言葉とわざを受け入れない場所は異邦のように見なされ、「まことのイスラエル」ではないとされたのです。

つまり、十二人を受け入れる人々は「まことのイスラエル」として、神さまとの関わりを生きる人々になりますが、受け入れない人々は、仮に自分たちこそは真のユダヤ人と自負していたとしても、異邦人のように見なされるのです。なぜなら、十二人こそが「まことのイスラエル」、神さまとの豊かな交わりを生きる者だからです。

お知らせ

今日は、運営協議会です。

9時半のミサの後にアントニオ会館で行います。

皆さん、ご参加ください。